

ITI Scholar NEWS

vol.15 (2024, May)

ITI Section Japan



ITI スカラー通信第 15 号をお届けします

岩内洋太郎先生

University of Basel

(Basel, Switzerland)

スイスのバーゼル大学（UZB）に留学中の岩内洋太郎と申します。こちらにきてから半年と、時が経つのは早いもので留學生活も半分終わってしまいました。サマータイムが始まったこともあり既に 20 時を過ぎても明るい日々が始まりました。ヨーロッパの秋から冬は日も短く、曇天や雨の日々ばかりで気が滅入りそうな天気でしたが春の訪れと共に晴れる日が多くなって参りました。今回は半年間の研究の進捗や臨床で学んだこと、参加したセミナーや日常生活についてお伝えしようと思います。

研究についてですが、Prof. Zitzmann と研究の Supervisor の Dr. Rohr にお世話になっておりまして、一年（実質半年程度）でデータを揃えとなると臨床研究は難しいという結論になり、理工学的な内容へシフトし、前歯部カンチレバーインプラントヘジルコニア上部構造 (4Y-PSZ) を用いた際に経年劣化がどの程度影響するかを研究しております。ティッシュレベルとボーンレベルインプラントの比較も盛り込んだプロトコルです。UZB のラボには咀嚼シミュレータが導入されており、他にも経年劣化を想定することが可能な機械もございまして。素晴らしい環境で研究をさせて頂いております。細かくは記載できませんが、昭和大学の補綴科で培ったデジタルに関する知識やノウハウが、材料を製作する上で非常に役に立っており、改めて自分の医局にも感謝をしながら進められております。丁度執筆現在 4 月の時点でようやく全ての実験が終了し、論文も半分程度書き上がっており、お陰様で順調に進んでおります。

臨床に関してですが、Prof. Zitzmann や臨床の Supervisor Dr. Ohla にアシストさせてもらい、臨床の中で日本との違いや治療方針についてディスカッションしながら非常に有意義な時間を過ごしております。勿論若手の先生の臨床も見させてもらっておりまして、皆しっかり時間と手間をかけており、羨ましい限りの環境だと感じております。補綴治療の性質上全顎的な治療が必要な場合様々な治療のオプションが考えられるかと思うのですが、日本のような保険制度は無いため、カンファレンスで患者の経済的な予算も記載して治療方針をディスカッションしています。例をあげるとキリがないですが多くの場面で日本との違いを感じ、それを Supervisor とも共有して楽しく学ばせてもらっております。自分の研究テーマにも垣間見られるのですが、全般的に MI の意識が強いと感じており、自分の臨床の観点からみて何の疑いもなくフルカバレッジにするようなケースでもテーブルトップや縁上マージンを選択し、非常に考えさせられる場面が多いです。しかし残念なことに臨床の Supervisor Dr. Ohla が 2 月に退職してしまいました。具体的には言及できませんが、辞められる理由も日本の大学に似た理由でしたので、そういった点もまた違った意味で良い勉強になっております。

また 4/19 に UZB で行われた Research day において、こちらに来て初めて講演させて頂く機会を頂戴しました。

「The difference between Swiss and Japanese dentistry and my future」というテーマで、日本の歯科医療と自分の研究トピック、UZB が私にとってどんな Milestone なのかといった内容をお話しさせて頂きました。

スイスの ITI study club にも積極的に参加しておりまして、Basel で開催される会は勿論、先日 ITI study club Luzern で Zurich 大学の Dr. Nadja Nannie のショートインプラントについての講演に参加して参りました。Dr. Nadja Nannie は現在 ITI Section Switzerland Chairman として、スイスの次世代オピニオンリーダー的な存在の方です。研究の内容をお聞きしていると、スイス含め他大学のチームと共同の臨床研究プロジェクトが非常に多く、個人的な感想ですが前向き研究に関しても、日本の倫理審査的には難しいのではというようなアグレッシブな内容が多く驚きました。それと共にスイスには歯科大学が4つしかありませんが、逆に密接な関係が築きやすいのも素晴らしい研究が多い所以なのかなと感じております。また Basel にも先日講演にいらして下さりまして、インプラント治療を見据えた抜歯前後の軟組織と硬組織マネージメントに関して、最新のエビデンスを元に説明しておりました。どちらのテーマに関しても同様な事が言えるのですが、いかにリスクを減らし最小な侵襲に抑えた治療計画にするかが根本にあるように感じました。

また昨年末に、AI や次世代テクノロジーに関するプロジェクトについて Zurich 大学の Prof. Tim Joda の講演も拝聴したのですが、正にトップランナーといった印象で非常に感激しました。現段階での AI 技術の歯科への応用の到達点と現在進行しているプロジェクト、Basel 大学と共同研究している自動支台歯形成マシンの開発秘話など例をあげるとキリがないのですが、ご興味ある方は是非 Tim 先生の論文を見て頂けたらと思います。

ITI は Scholar 達と繋がる機会も積極的に作ってくれております。先日スイスの Scholar 全員が Basel に来てくれまして、Straumann 本社のセミナールームで私より一年先に同じ Basel 大学に留学しておりました井上先生が Basel 大学でのダイナミックナビゲーションに関する研究について講演して下さり、その後 UZB に場所を移し外科の Prof. Kull のオペ見学に加え GBR についてのショートレクチャーと素晴らしい機会になりました。私自身も Zurich 大学に見学へ行き、憧れの Prof. Jung ともお話しさせて頂きました。また5月にシンガポールで開催される ITI World Symposium に今年の全世界の ITI scholar 全員を招待してくれております。Scholar パーティも企画されており、最終日の Annual dinner も招待してくれておりました新しい仲間や世界のトップランナーとの出会いがとても楽しみです。改めて ITI に心より感謝申し上げます。

さて、日常生活ですが、すっかりこちらの生活に慣れまして楽しく過ごさせて頂いております。スイスの冬といえばアルプス山脈でスキーですが長年の夢でもありましたマッターホルンでのスキーへ行参りました。実は私自身スキーは幼少期から親しんでおり、小学校6年生の時に SAJ1 級を取得し、野球と並行してアルペンスキーもやっておりました。マッターホルンのスキーエリアは山頂の尾根を境にスイスとイタリアの国境があり、とんでもなく広いスキーエリアと雄大な景色になっております。富士山よりも高い山頂 3886m のゴンドラステーションは、一体どうやって建設したのだらうと驚きました。オフピステ（コース外）も自己責任ではありますがほぼ全面滑走可能です。スキーに精通している方は理解して頂けるかと思いますが、日本でもどのスキー場にもスキーをこよなく愛するローカルスキーヤーグループが存在するのですが、これは国が違っても同じでした。早速オフピステを滑っていましたら声をかけられ、滞在中毎日ローカルしか知らないようなエリアを沢山案内してくれ、それは素晴らしい出会いと経験でした。私はスイス側の Zermatt に滞在したのですが、車の乗り入れができない環境保全地域として、歴史ある街並みも保存されており、静かな独特の佇まいが印象的でした。

Basel には 14 世紀から続く、世界無形文化遺産にも登録されている「Fasnacht」というお祭りがあり今年
は 2/19～21 まで開催されました。街中を昼夜問わず隊列を作って伝統の楽器を演奏しながら歩くの
ですが、いつもは静かなスイス人もここぞとばかりに騒いでいる様子にとっても驚きました。夜中も
続くので流石に寝不足になりましたがとても良い経験でした。

クリスマスマーケットもヨーロッパでは非常に大きなイベントでして Basel も名所の一つです。
1 ヶ月くらいの開催期間中に Zurich、フランスの Colmar、ドイツの Stuttgart にも足を運びました。
クリスマスはこちらの人にとっては年末年始より大きなイベントというのもまた日本と違って面白
いです。イースター休暇も同様で、街中のお店も大学病院も 1 週間お休みです。私は南フランス
に足を運び、Nice, Cannes, Monaco へ行って参りました。飛行機で 1 時間程度なのですが、地中
海はまた全く違う気候で過ごしやすく人気の旅行地である所以が良く理解できました。丁度出
発する日の夜中にサマータイムに切り替わったので危うく飛行機に乗り遅れるところでした
が笑。

長文にはなってしまいましたが、まだまだ書きたい事が山ほどございますのでまた次回の機会にお
伝え出来ればと思います。ITI Section Japan の関係者の皆様、そしていつも温かいメッセージを
下さる塩田先生、いつも有難うございます。この場をお借りしまして心より御礼申し上げます。



UZB での講演の様子



憧れの Zurich 大学 Prof. Tim Joda と UZB にて



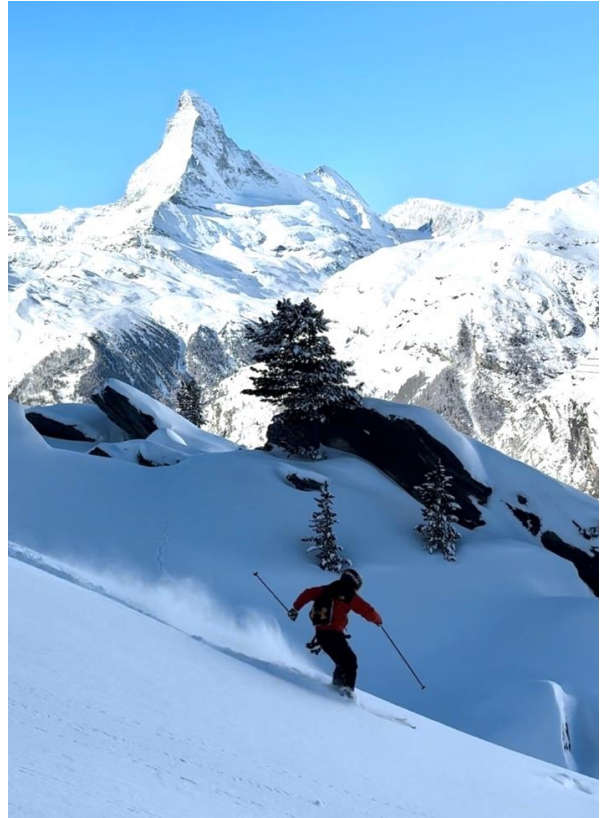
Dr. Nadja Nannie と Luzern にて. 大の親日家です



臨床オーペン Dr. Harald とライン川寒中水泳. 気温 5°Cです



日本映画が大好きな UZB の Prof. Bornstein と
ゴジラ-1.0 を観に行く前にお食事



マッターホルンをバックにオフピステスキー
スキーは世界共通言語です

ありがとうございました。

